

放射光共同利用実験審査委員会速報

放射光実験施設運営部門 君島堅一
兵藤一行

2020年10月1日(木)に、放射光共同利用実験審査委員会(PF-PAC)全体会議が、オンライン会議形式で開催されました。放射光実験施設報告やPF-PAC制度の改正など実験施設運営に関する重要事項の報告・議論・審議がなされました。今回は、2020年度第2回目の全体会議になります。

報告事項

- 放射光実験施設報告(船守実験施設長)

今年度の運転日程、遠隔・自動測定機能の強化に関する二次補正予算交付、KEKロードマップ2021の中間まとめの概要、ビームライン再整備検討WGの設置等について説明がありました。

審議事項

以下の事項について審議されました。

1. PF-PAC分科再編について

2021年度から(課題募集としては2021年度後期から)PF-PACの分科を、ビームライン編成に準拠した編成とする改正案が提案されました。5分科から6分科に変更した新分科会の編成案について説明がありました。再編の効果について、分科不一致の解消や複数分科の評点の混在の解消、分野横断的な審査が可能になること、また、本案はこれまでPF-PACやPF内でも議論を経てきたという経緯について補足の説明がありました。審議の結果、2021年度から分科を再編することが了承されました。

2. PF課題の整備について

現行の「所内優先課題」や「施設留保課題」を整理して、PFスタッフを対象とする「PF課題」を新たに整備することが提案されました。新たに整備する制度について、課題の区分、特徴および対象者について概要説明があり、これにより施設戦略の可視化、創出成果の最大化が見込まれるほか、共同利用実験課題以外へのビームタイム配分の根拠が明確になるなどの説明がありました。審議の結果、2021年度から新たな区分のPF課題を実施することが了承されました。細かい運用上の修正についてはPF側で検討後、実施することとされました。

3. マルチプローブ共同利用実験課題の新方式及び2021年度前期公募について

見直しを進めていたマルチプローブ共同利用実験課題の新方式案と2021年度前期公募案について、新設する2種類の課題(エキスパートタイプとスタンダードタイプ)の特徴や審査方針、エキスパートタイプの課題で実施する中間評価の方針等に関する説明がありました。審議の結果、マルチプローブ共同利用実験の新方式案及び2021年度前期公募(エキスパートタイプ課題)を開始することについて了承されました。

その他

- 従来からPF-PACで議論されていたことも含めて、委員会の制度・運用や、実験参加者の資格などの項目について意見交換がなされました。
- 次回PF-PAC全体会議は来年1月の開催を予定しています。

第123回物質構造科学研究所運営会議議事次第

日時:2020年9月16日(水) 13:30~

開催方法:管理棟大会議室およびウェブ会議

議事

【1】第121回~第122回議事要録について

【2】審議

- 次期所長候補者について
- 学術研究フェローの雇用計画について
(特定人事・特任助教1名・住友ゴム工業(株)とのクロスアポイントメント)

第124回物質構造科学研究所運営会議議事次第

日時:2020年9月30日(水) 13:30~

開催方法:管理棟大会議室およびウェブ会議

議事

【1】第123回議事要録について

【2】審議

- 次期所長候補者について
- 教員人事(特定人事 中性子 特任助教1名・住友ゴム工業(株)とのクロスアポイントメント)
- 特定人事(中性子 特別准教授1名)
- 特定人事(中性子 特別助教1名)
- 特定有期雇用職員の雇用計画について(特定人事 中

性子 特別教授)

- (6) 教員の雇用計画について (特定人事 ミュオン 助教 1 名)
- (7) 2020 年度後期ミュオン共同利用 S 型実験課題審査結果について
- (8) 教員公募 (量子ビーム連携研究センター准教授 1 名)
- 【3】 所長報告
- 【4】 報告
 - (1) 人事異動
 - (2) 2020 年度後期放射光共同利用実験課題審査結果について (条件解除)
 - (3) マルチプローブ共同利用実験の新体制及び 2021 年度前期公募について
 - (4) 協定等の締結について (国内機関関係)
 - (5) 協定等の締結について (外国機関関係)
- 【5】 研究活動報告 (資料配布のみ)
 - (1) 物質構造科学研究所報告
 - (2) 素粒子原子核研究所報告
 - (3) 加速器研究施設報告
 - (4) 共通基盤研究施設報告